

年表に見るWebドキュメント活用の新しいカタチ

山口琢

株式会社ジャストシステム

自治体の歴史や社史など、Webではよく年表が公開されている。これらが、人が読めるだけでなくコンピュータ処理も可能であれば、年表のマージや対照など新しい活用方法が生まれる。microformatsのhCalendarはこのような年表Webドキュメントを一般的なモノにする可能性が高い。

A Progress In Using Web Documents In The Case Of Chronicle

YAMAGUCHI Taku

Justsystems Corporation

There are many histories of cities, companies on the Web. If these histories are machine parsable, there will be new ways of use Web documents: we can merge histories and compare our life's stories with our city's. hCalendar of microformats probably realize chronicles on the web.

処理可能な年表とその意義

処理可能な年表とは、年表記述の意味をとらえてコンピュータ処理が可能なものを指す。たとえば、次のようなことが可能である:

- 年表中の「年」を単なる文字列ではなく日付型の年として処理することで、過去から現在へ、あるいは現在から過去へと整列の向きを変える。
- 複数の年表をマージして、一つの年表とする。

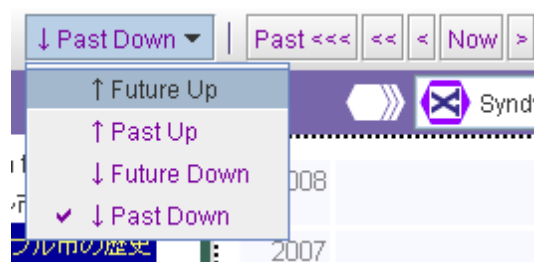


図1: 整列の方向

自治体のホームページでは、その地域の歴史が年表として掲載されているのをよく見かける。これには、その地域の歴史を共有することで、その地域への一体感を深める狙いがある。処理可能な年表は、この効果を高める。すなわち、

- 地域の歴史と自分史をあわせてみる
- 将来の見通しやトレンドと自分たちの製品計画をあわせてみる
- さらに、技術の歴史と自分の経歴をあわせてみる

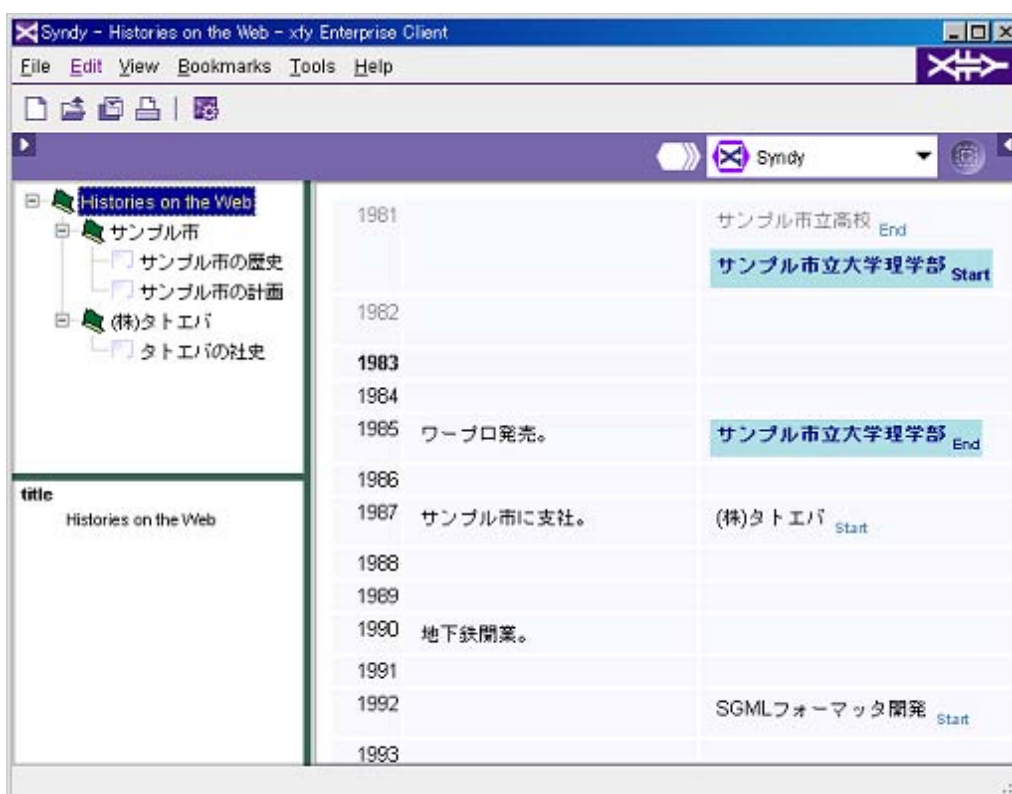


図2: 複数年表のマージ

図2では、市や所属企業の歴史をマージして左列に、自分の履歴を右列に表示している。このように表示すると、3者それぞれ個別にあるよりも、より身近に実感を持って歴史をとらえることができよう。

報告者はこのような機能を持つ"[Syndy Chronicle](#)"を試作した。

イベント記述とmicroformats principle

イベント記述のデータフォーマット

報告者は、[microformats](#)方式による[hCalendar](#)や[hResume](#)が、上記の意味で処理可能な年表をWebにもたらず、有力な手段ではないかと考えている。なぜなら、従来のWebにおける年表掲載のワークフローを変えずに済む可能性が高いからである。

イベントやスケジュールをコンピュータで処理することは従来から可能であったが、これらを処理するソフトウェアは、Webブラウザほどには一般化していない。すなわち、スケジュールソフトは従来から存在している。また、[iCalendar](#)というデータ形式が規格化され、メジャーなスケジュールソフトは、この形式でスケジュールをインポート/エクスポートすることができる。それにもかかわらず、たとえば自治体の年表やイベント告知がこれらのフォーマットで公開されるにはいたっていない。

これらとmicroformatsとの違いは[microformats principle](#)に端的に表現されている。

Microformats principle

Microformatsの原則には次が含まれている:

design for humans first, machines second

- be presentable *and* parsable
- *visible data* is much better for humans than *invisible metadata*
- adapt to current behaviors and usage patterns, e.g. (X)HTML, blogging
- [ease of authoring is important](#)

これによれば、Webへ年表やイベントを告知するワークフロー、すなわち担当部署や手順、担当者のITスキルが確立していれば、それを変えることなく、microformatsによる年表やイベント告知が実現する可能性が高い。なぜならば、人が目で見て判断できる年表についてワークフローが確立していれば、その見かけを崩さないのであれば、この年表に機械処理可能な情報を付加しても人の判断や行動を損なうことはないからである。そして、そのような情報付加作業(authoring)が容易であれば、担当者に求められるITスキルにもさほど変更がない。

実際、そのような情報付加作業は容易であろう。すなわち、従来の(X)HTMLエディタがmicroformatsをサポートするのは容易であるし、それを利用者が編集操作するのも容易であると考えられる。microformatsのイベント記述形式であるhCalendarで見てみよう。

hCalendar

hCalendarでは、次のようにイベントを記述し:

```
<ul class="vevent">
  <li class="summary">第58回デジタルドキュメント研究会</li>
  <li>日 時 : <abbr class="dtstart"
    title="2006-11-30T13:00:00-0900">2006年11月30日(木) 13:00</abbr>-
    <abbr class="dtend" title="2006-11-30T17:30:00-09:00">17 : 30</abbr></li>
  <li>会 場 : <span class="location">松下電工株式会社
    <span style="font-weight:bold">東京本社</span></span></li>
</ul>
```

次のように表示される:

- 第58回デジタルドキュメント研究会
- 日 時 : 2006年11月30日(木) 13:00- 17:30
- 会 場 : 松下電工株式会社 **東京本社**

下線を引いた部分がhCalendar記述に該当するが、「東京本社」を太字にするのと記述が似ていることに注目されたい。すなわち、hCalendarをサポートした(X)HTMLエディタは、「選択した文字列を太字にする」と同様な操作で「選択した部分を『サマリー』とマーク」させることができる。

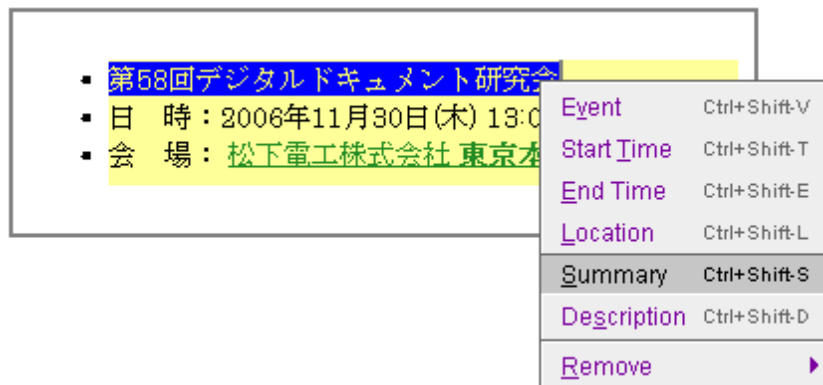


図3: hCalendar編集の例

まとめ

Webで公開されている年表がコンピュータ処理可能になると、Webドキュメント利用の新しいカタチが現れる。MicroformatsのhCalendarはこれを実現する可能性が高い。

年表には自治体の歴史や社史だけでなく、ディスコグラフィ、XMLなど技術の歴史、アニメ作品中の世界観など様々ある。これらが、ここで述べたように処理可能となれば、物事をよりリアルに理解する助けになると期待する。

参考文献・サイト

- [1] Syndy Chronicle
<http://www.ne.jp/asahi/yamahige/green/syndy-chronicle/Readme-ja.html>
- [2] Microformats.org
<http://microformats.org>
- [3] hCalendar
<http://microformats.org/wiki/hcalendar>
- [4] hResume
<http://microformats.org/wiki/hresume>
- [5] iCalendar
Request for Comments: 2445, Internet Calendaring and Scheduling Core Object Specification, November 1998.
<http://www.ietf.org/rfc/rfc2445.txt>
- [6] Microformats principle
http://microformats.org/wiki/microformats#the_microformats_principles